

定期報告

2011年6月2日(木)

天候:曇り 温度:22°C 湿度:53% 風:なし

放射線量:0.11 μ Sv/h:持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 昼:とんかつ弁当

夜:生姜焼き、せんべい汁、ちくわきゅうり、つけもの

氏名:西村 宜朗(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

7:00

弘前町田本部出発。大勢の人に見送られ、撤退が近くなった時期の支援という今回の任務の大きさについて考えさせられた。医療チーム撤収後の避難所の皆さんに継続した医療を受けてもらえる体制、また、軽微な症状なら市販薬や配置薬で対応できる体制を引き続き整備できたらと思う。

11:30

大槌到着。撤退が始まっているのか、今までに比べ対向車に自衛隊の車両が少なく感じられた。未だに駐屯地では多くの自衛隊が設営して、瓦礫の撤去はずいぶんすすんでいた。

12:00

大槌高校で昼食。近隣に再開した弁当屋さんがあるようで、前任医療チームより人数分の弁当を用意して迎えていただいた。

12:30

前任チームより引き継ぎ。

13:00

南部病院の医師、看護師の方と挨拶、打ち合わせ。今回のチーム編成は医師1名、看護師2名、薬剤師2名、事務2名、総務担当2名となった。通常の診療の流れなどを申し合わせ、薬剤師の大まかな仕事の流れなど報告。午後の診療開始。

16:00

午後の診療終了。小笠原医師は状況の確認と挨拶のため大槌病院仮設診療所へ。残った薬剤師、総務、看護師、事務は夕食の準備。

18:30

夕食。歓談。

20:00

JMATチームの宿泊する物理室に子供が相談へ。隣の部屋が夜の勉強部屋として開放されているのだがカギが閉まっているとのこと。事務室へ相談し開けてもらった。夜の勉強するための部屋も確保されていて、利用者も結構多いらしい。

22:00

就寝

引き継ぎ事項

- ① 釜石でおこなう災害対策本部でのカンファレンスは週3回(月、水、金)へと変更になり、開始時刻も17:30に変更となった。
- ② 大槌病院の再開移転について、6月1日から6月21日へと延期になった。
- ③ 救護所内のベッドシートが今まで一度も交換したことがなかった。変更を保健室の古川先生に物資の調達を依頼中。
- ④ 保健師が避難所を巡回する際に必要な患者情報を毎朝のカンファレンスで受け渡す。
- ⑤ 救護所内で見つかったOTCが大量にある。仕分けして、土曜日に対策本部の中田薬剤師が来たら、不要なものは引き取ってもらう。
- ⑥ OS-1の期限が近付いている。その他に、避難所内でも1箱在庫しているため、避難所の代表に依頼し、期限を確認中。
- ⑦ 救護所の医師当直は解除となった。

避難所の方のお話

救急箱の管理は難しい。薬を持っていくときに名前を書いてもらうようお願いしているのだがあまり守られていない。だまって多くの薬を持っていく人もいて難しい。相談先の設置や使用方法の確立など、安全で公平に利用できる状況を考えていきたい。

氏名:武長 進一(薬剤師)

体調:良好

行動日誌

7:00 弘前町田本部出発

11:30 大槌到着、

途中の釜石からの被災状況を目の当たりにしたが事実と認識するまで少々時間がかかった。

12:00 大槌高校で昼食

12:30 先遣隊からの引き継ぎ

13:00 午後の診療開始、南部病院のドクター、看護師の方と挨拶後診療。

5名の患者さんが受診。

16:00 午後の診療終了

終了までの活動時間中に西村隊長より業務の流れ、記載、記録事項のレクチャーを受ける。また、空いている時間にOTCの仕分けを同時進行。

18:30 夕食

南部病院の看護師の方と町田チームの調理担当の作られた美味しい食事をいただく。
食事をとりながら明日の打ち合わせを行い南部病院チームとの親睦をはかる。

22:00 就寝

出発時に社長はじめ大勢のお見送りありがとうございました。

現地に入って被災された方の肉体的、精神的疲弊が強く感じ取られた。数人ではあるが我々を見る目つきが鋭く恐ろしさを感じる人もいた。

カウンセリングルームには常に、相談を受ける被災者の方がいた。

集団感染は発生しておらず、保健師さんたちの消毒徹底の初動活動が見事だったことが伺われた。体調を維持し明日も頑張りたい。

氏名:齊藤 武志(総務)

体調:良好

行動日誌

7:00 弘前町田本部 皆さんに見送られ出発

11:30 大槌町に到着 「うわ～」という言葉しかでなかった。

12:00 大槌高校でとんかつ弁当を食べた。

12:30 三上総務よりゴミ捨て場の確認等引き継ぎ

13:30 原田薬剤師チーム見送り

14:00 食材の在庫確認と荷物を降ろした。

14:30 土橋総務、南部病院の土川さん、古舘さんと一緒に被災地の状況確認と、
医療機関場所確認、食材確保。

16:30 南部病院の方と、土橋総務と夕食準備。

18:30 夕食。最高においしかった。

22:00 就寝

最初、大槌高校に入った時は、かなりのとまどいと緊張で余裕がなかった。しかし、いろんな方々と話ができ、気合いが入ってきた。被災者の為に何ができるのかしっかり考えたい。

氏名:土橋 千洋(総務)

体調:良好

行動日誌

7:00 弘前町田本部を出発

11:30 大槌町に到着

来る途中の街並みが突然変わり、想像を超える光景に言葉を失い心が痛んだ。

12:00 昼食にとんかつ弁当を食べた。

- 12:30 葛西総務と現場の確認をした。
- 13:30 原田薬剤師チームを送り出した。
- 14:00 避難所内の場所確認と食材の在庫を確認した。
- 14:30 齊藤総務、南部病院の事務土川さん、古舘さんと一緒に現地の場所確認と食材の買い出しに行った。
- 16:30 南部病院のスタッフ2名と齊藤総務とで、夕食の調理を開始
- 18:30 南部病院小笠原理事長、スタッフ4名、町田スタッフ4名で夕食
- 22:00 就寝

今日大槌高校に着き、一番驚いたのが、被災者の皆様が大きな声でこんにちとはと、挨拶をしてきたことだ。また避難者の高齢者の方からは、青森県の方々には本当に感謝しておりますとの言葉も頂いた。これまでの支援チームの皆さま方の頑張りを凄く感じた。明日から今日感じた心の痛み、支援チームの功績を忘れずに頑張りたい。